

カンディダ (抱かれてゐて、微笑しつゝ、ユージーンに) ユージーンさん、私

はあなたのお母さんにもなり、姉さん達にもなれませうか?

マリーチ (如何にも嫌悪するが如き身振りをして立上り) いゝえ、決して。では、もう暗の中へ。

カンディダ (急に立上り、行かんとするマリーチパンクスを遮り) そんな風にして行かうと言ふんですか?

マリーチ (最早子供らしくはなき—成人の聲で) 時計が鳴れば刻は知れます。すべきことは直にせねば気が済みません。

牧師 (驚いて突立上り) カンディダ。早まつた事をさせちやいけないよ。カンディダ (自信ありげに微笑して、ユージーンに向ひ) いゝえ、大丈夫。

あの人は幸福なしに生活することを知つてゐます。マリーチ 私はもう幸福は望みません。人生はもつと高尚です。牧師

さん、私は私の幸福を甘んじてあなたに差上げます。私は私が愛した婦人を満足させて下すつたから、あなたを愛します。左様なら。

(戸のはうへ行く) カンディダ 一言いふことがあります。(マリーチパンクスは立止まつたが

振向かない)。あなたは何歳です、ユージーンさん? マリーチ 今では、世界と同じ歳です。今朝は十八でした。

カンディダ (傍へ行って、その後ろに立ち、片手を愛撫するやうに肩におき)。十八! ねえ、私のために今私が言はうとすることを二句の詩に作つて頂戴な? さうして私を思ひ出しなされる度に、それをどうか讀返して下さいな。

マリーチ (動かずに) 文句をおつしやい。カンディダ 私が卅歳になれば女は四十五。私が六十になれば女は七

十五。

マーチ (振向いて) 百年経ちや同じ歳になるでせう。然し私は胸の中にもつと善い秘密を持つてます。もう行きませう。外の暗の夜が待ち兼ねてゐます。

カンデイダ 左様なら。(両手でマーチバンクスの顔をはさみ、マーチバンクスが其の意を悟つて跪くと、其の額に接吻する。やがてマーチバンクスは夜の暗の中へ走り去る。カンデイダは振り返り、夫のはうへ兩腕を差出す。あゝ、ジェームス！二人相抱く。但し二人とも詩人が心中の秘密は知らない。)

### カンデイダ(完)

大正二年十二月三日印刷  
大正二年十二月六日發行

(正價金六拾錢)



譯者 河竹繁俊

發行者 荒川信賢

印刷者 渡邊八太郎

東京市小石川區音羽町四丁目十一番地  
東京市牛込區櫻町七番地

發行所

東京牛込  
早稲田

早稲田大學出版部

振替東京一二三三番電話番町三二四番

刷印社會式株刷印清日

9M6P

所 捌 賣

大阪北區	東京京橋	東京日本橋	東京神田
盛文館	北隆館	至誠堂	東京堂

(其他全國各書肆)

終

